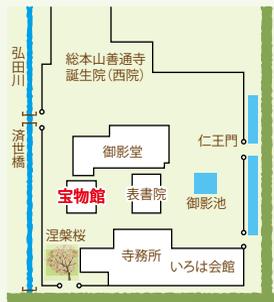


弘法大師空海の 御作・遺品も収蔵・展示

総本山善通寺は、昔から歴代の天皇の信仰も厚く、しばしば^{りんじ いんぜん}綸旨、院宣などの天皇ゆかりの品も寄せられ、また弘法大師空海の御作や遺品も残されています。そうした宝物が納められているのが宝物館です。明治40(1907)年に創設され、現在の建物は弘法大師生誕1200年記念事業として文化庁の指導の元、昭和47(1972)年に完成しました。

国宝の「^{こんどうしゃくじょうとう}金銅錫杖頭」、^{いちじいちぶつほけきょうじよぼん}「一字一仏法華経序品」をはじめ約2万点を収蔵し、そのうちの約30点が展示されています。



- 善通寺町三丁目3-1
- JR善通寺駅から徒歩約17分
- 拝観時間/8:00~17:00(受付は16:30まで)
- 年中無休
- 戒壇めぐり・宝物館拝観料/大人500円
小・中学生300円
- 問い合わせ/☎ 0877-62-0111



^{こんどうしゃくじょうとう}
金銅錫杖頭 **国宝**

錫杖とは僧侶などが持つ杖のことで、杖の先端の金属製の飾りの部分(長さ55cm)には、阿弥陀三尊像を中心に四天王の持国天、増長天を配し、裏面には阿弥陀如来と両脇侍の立像を広目天、多聞天が守護しています。中国唐時代の作で、空海が^{けいけいあじやり}恵果阿闍梨から授かり持ち帰ったものと伝えられています。

※通常は写真パネルによる紹介で、毎年6月13・14日に原品の特別公開を予定。



^{いちじいちぶつほけきょうじよぼん}
一字一仏法華経序品 **国宝**

全長21.2mの巻物に、法華経序品の1字ずつを空海が書き、その行間に如来像を1体ずつ空海の母・玉寄御前が描いたといわれています。

※通常は複製本(コロタイプ印刷)の展示。毎年11月3日に原本特別公開を予定。



^{ちごだいしりゅうどう}
稚児大師立像

江戸時代
空海幼少時代(真魚)のお姿



^{きつしょうてんりゅうどう}
吉祥天立像

国重要文化財

平安時代
(10世紀末~11世紀前半)



^{じぞうぼんまつりゅうどう}
地藏菩薩立像

国重要文化財

平安時代
(11世紀後半~12世紀初頭)